

令和元年第5回（11月）瀬戸内市議会定例会

行政報告

本日は、令和元年第5回（11月）瀬戸内市議会定例会を招集しましたところ、ご多用の中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

10月12日から13日に東海地方から関東地方に上陸した台風19号、また25日から26日にかけて東日本沿岸に接近した台風21号の影響により、関東、甲信、東北地方を中心に記録的な豪雨となりました。これにより、多くの河川が決壊・氾濫し、広範囲にわたる甚大な被害が発生し、多くの方がその犠牲となりました。この災害により、亡くなられた方にお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々には、心からお見舞いを申し上げます。

瀬戸内市においては、10月21日、今回の豪雨により大きな被害を受けた福島県郡山市の避難所に段ボールベッド50組を届けました。郡山市とは東日本大震災を機に職員の防災研修等で交流があり、早期の支援が実現したもので、高齢の避難者の方からは、「避難生活が緩和できる」と感謝の言葉をいただきました。

観測史上最大級ともいえる今回の台風をはじめ、全国で発生している想像を超える集中豪雨は、瀬戸内市においてもいつ発生するかもわかりません。今回の台風19号等による災害は、ハード面の対応には限界があり、減災には的確な避難情報の提供と迅速な避難等ソフト面の強化が必要であるということを改めて認識することとなりました。今後は風水害による避難所の開設や、的確な避難情報伝達による迅速な避難誘導について見直しを進めていくこととしています。

山鳥毛里帰りプロジェクトについては、事業費を山鳥毛購入費 5 億円と刀剣博物館施設改修費等 1 億円、計 6 億円とし、その財源は寄付によることとしていました。

このうち刀剣博物館の施設整備費については、昨年 5 月に文化庁の調査官が刀剣博物館に来館された際、国宝を展示する施設として、収蔵庫やこれに伴う施設の改修が望ましい、との指摘を受け、改修にかかる経費を 1 億円と見積もり、今年度予算として計上させていただいていました。

今年度に入り、文化庁と刀剣博物館の改修計画について、詳細な協議を行ってきたところ、国宝のうち所有したもののみを展示することを前提として、現在の収蔵庫で適切な温度管理等をするのであれば、収蔵庫の改修は不要であるとの回答をいただきました。

当プロジェクトの内訳は、山鳥毛購入費 5 億円、施設改修費 7 千 7 百 9 1 万円、展示ケース 1 千 3 百 9 万円、設計委託料 9 百万円、合計 6 億円となっており、内閣府に地域再生計画として認定をいただいておりますが、施設改修関係経費を減額し、山鳥毛購入費及び展示ケース購入費のみの事業に変更することについては、可能であるとの確認を得ています。

このため、山鳥毛里帰りプロジェクトとしては、事業費を山鳥毛購入費 5 億円と展示ケース購入費 1 千 3 百 9 万円、計 5 億 1 千 3 百 9 万円に減額としたいと考えています。

以上申し上げ、早速ですが行政報告に移らせていただきます。

総務部関係

○ 組織の見直しについて

国の動向や市の課題、多様化する市民ニーズに対応するために、令和 2

年度からの組織について検討を進めています。具体的には多様化・複雑化する子育てニーズに対応するため、結婚・出産・子育て支援、就学前保育・教育を一元化して推進する組織と文化・文化財の付加価値を高め、それを核として、観光やまちづくりに活用するための組織について、所管する事務の内容等関係部署による協議を行っています。また、あわせて組織の体制整備のため、国からの派遣や公募による人材の確保についても検討をしています。

危機管理部関係

○ 瀬戸内市総合防災訓練について

9月8日、長船中学校において、風水害を想定した総合防災訓練を実施しました。近年の風水害は、昨年の西日本豪雨や、冒頭で申し上げました台風19号等による関東を中心とした各地で甚大な被害を引き起こしています。

総合防災訓練当日は、ボランティアとして長船中学校や邑久高等学校の生徒をはじめ、自衛隊、瀬戸内市消防団、せとうち防災リーダー等訓練関係機関から約240人、一般の方約330人の参加をいただきました。また、今回は障がい者の方にも参加をいただき、避難や避難所生活も体験していただきました。障がい者の方からは、「障害がある人も地域で生活しているということをその地域の人に知ってもらえるいい機会になった」という意見もいただきました。地域の消防団や防災リーダーと子どもや要配慮者がつながることで、さらなる地域防災力の向上が期待できます。今後も、防災訓練や自主防災組織研修、防災リーダー研修を通じ、自助、共助の意識啓発に努めるとともに、職員の防災研修を行うことで、公助の強化にも努めていきたいと考えています。

総合政策部関係

○ 市営バスの新路線導入等について

今年11月から新たに導入することとしていた「大富一邑久駅(南)・(北) (なんぼくせん)」の2路線及び「長船北線」の計3路線は、車両の納車等の遅れにより、令和2年1月から運行する予定としています。

現在、3路線沿線の自治会への説明会を終え、最終的な停留所の位置の決定や各種届出の準備等を進めています。この新路線の導入により、市内の公共交通不便地域にお住まいの方の割合は、今年度当初の20.7%から約7%にまで改善される見込みです。

高齢者の外出機会の増加による健康増進や地域経済の活性化を図るため、市営バスの利用について、引き続き利用者への周知に努めます。

保健福祉部関係

○ 邑久小学校区における放課後児童クラブの新設について

民設による放課後児童クラブの開設を目的に公募していた放課後児童健全育成事業者を「特定非営利活動法人おかやま放課後児童クラブ運営機構」に決定しました。現在、事業者において、令和2年4月開設に向け準備を進めているところです。

なお、入所児童の募集につきましては、市の広報せとうち等により、周知を図っています。

○ 生涯現役応援センターについて

人生100年時代を見据え、働く意欲のある高齢者が培った能力や経験

を生かし、生涯現役で活躍し続けられるための高齢者の生涯現役応援センターにつきましては、昨年度から検討委員会を設置し、4回にわたり検討をしてきました。10月8日の検討委員会におきまして、高齢者の生涯現役応援センターの設置を進めるため、国（厚生労働省）の事業採択に向けて事業主体となる協議会を設置することとなり、11月8日、市を始め、商工会、社会福祉協議会、シルバー人材センター、老人クラブ、大学等で構成された協議会を設立しました。

今後は、協議会において、国の事業採択及び事業実施の準備を進めていきます。

産業建設部関係

○ 鳥獣被害防止対策について

深刻化する野生動物による農作物等への被害について、これまで防護柵の設置と共に、捕獲に関しても猟友会の皆さま方の協力の下、全力をあげて対策を実施しているところです。

今年度も、既に11月15日から狩猟期に入っているところではありますが、これまでに捕獲した狩猟期外の期間における頭数について、当初の見込み数である400頭を大きく上回る実績となっており、増加数に対応するための補正予算を今議会に計上していますので、よろしく願います。

また、野生動物の生態や適切な被害対策方法を学んでいただける機会として、今年11月から12月にかけて、市内3か所にて「獣害対策セミナー」を開催しているところであり、来年2月には、集落ぐるみで行う総合的な対策セミナーも開催する予定としていますので、引き続き、広く周知をしながら、関係者一丸となって対策を推進していきます。

○ 農村地域産業導入促進法による実施計画書の策定状況について

新たに企業誘致を進めていくために、旧農工法が改正され、新たな法律となった、農村地域産業導入促進法（いわゆる農産法）による、実施計画書の策定を目指し、これまで準備を進めてきたところです。

その中で、新たな産業導入地区の指定は、旧農工法に基づく既存の実施計画書に定める工業導入地区を整理した上で、指定することとなり、現在、数箇所を候補地として進めている状況です。

具体的には、農業振興地域整備計画や農地法との整合性を図りつつ、岡山県、中国四国農政局等、関係機関との調整を行った上で進めていきますが、導入地区を指定するには、企業側の立地条件に見合う地区であることに加え、実現可能性の高い計画を示す必要があることから、最終的には1か所に絞り込み、今年度中の計画策定を目指しているところです。

さて、今議会で提案申し上げます案件は、人事4件、条例9件、補正予算11件、その他1件、計25件です。

よろしくご審議をいただき、適切なお決定をいただきますようお願い申し上げます。市長部局の報告を終わらせていただきます。

令和元年11月26日

瀬戸内市長 武久 顕也